

# 市長提案説明要旨

平成30年2月16日

平成30年第1回鹿嶋市議会定例会の開会にあたり、市政運営に関する所信の一端と、新年度の事業概要並びに提出いたしました議案の説明を申し上げます。

## 《はじめに》

今年は、伊能忠敬の没後200年という節目の年に当たります。多くの方がご存知だと思いますが、忠敬は、人生50年と言われた江戸時代に、それこそ50歳から天文学を学び始め、17年の歳月をかけて、全国各地を自ら歩いて測量し、正確な日本地図を作った人物です。1801年9月5日には、鹿嶋市（当時の国末村）に宿泊した記録もあります。歩いた距離は、およそ4万km、地球1周分にも及び、自らの夢を実現するために苦難と挑戦の連続でありました。

今月9日から韓国の平昌（ピョンチャン）で、冬季オリンピックが開催されています。日本人選手の活躍により、大いに盛り上がりを見せておりますが、選手の皆さんは、オリンピック出場やメダル獲得を目指し、日々、過酷なトレーニングを積み重ねてこられたに違いありません。日本人選手の活躍はもちろんのこと、選手全員が持てる力を存分に発揮していただきたいと思っております。

現代の日本は、夢や希望を持たない人が増えていると言われます。伊能忠敬の偉業やオリンピックで躍動する選手の姿は、いかなる難題であっても、大きな“夢や希望”を持ち、それを成し遂げようとする強い“意志”があれば、必ず乗り越えることができると、私たちを勇気づけてくれます。

誰にも無限の可能性が眠っています。子どもたちをはじめ、若者も高齢者も、女性も男性も、障がいを抱える人も、誰もが夢を紡ぎ、それぞれの個性を生かして活躍できるまちづくりを進めてまいります。

## 《予算関係》

本議会に提案します平成29年度一般会計補正予算は、事業費の確定などにより増減を調整するとともに、老人医療給付経費に係る茨城県後期高齢者医療広域連合負担金や教育・保育施設入所支援事業の増などへの対応を図るものです。

平成30年度一般会計予算は、第三次鹿嶋市総合計画（後期基本計画）をはじめとする各種計画の着実な推進、鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進による地方創生への歩みを加速化させるとともに、2019年の茨城国体に向けた施設整備や、翌年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成事業などに重点を置き、予算編成を行いました。

主な施策としては、子育て支援の充実や教育環境の整備、公共交通の充実、若

年世帯の移住定住促進事業，中心市街地活性化事業，茨城国体及びオリンピック開催に向けた取り組みなど，鹿嶋市の将来を担う人づくりや市勢発展に欠かせない事業であります。

## 《地方創生》

全国の自治体では，平成27年度から，東京一極集中の是正を含めて人口減少と地域経済の活性化に向け，地方創生の取り組みを進めています。

こうした中，先月，総務省が公表した住民基本台帳人口に基づく「平成29年人口移動報告」では，地方から東京圏への若者の流出などで，東京圏は22年連続で「転入超過」となり，東京一極集中の度合いが増すという深刻な状況になっています。

本市では，若年世帯・子育て世帯の住宅取得支援や固定資産税の減免，東京圏での移住・就職相談会の開催，本市の住みやすさや子育て・教育環境の充実ぶりを紹介したハンドブックの作成など，移住定住の促進に向けた支援やPRを積極的に推進しております。

引き続き，総合戦略会議などで施策の評価検証をいただきながら，全庁挙げて，「鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進してまいります。

## (スポーツでつながるまちづくり)

サッカーや武道をはじめとするスポーツを通じて多様な交流を推進するとともに，観光産業などとの連携により地域の活性化を図ってまいります。また，スポーツ環境の整備を図り，スポーツを通じた市民の健康づくりを推進してまいります。

茨城国体や東京オリンピックの大会成功に向けて，市を挙げて受入体制の整備などを進めるとともに，一過性のイベントに終わらせることなく，まちづくりの起爆剤として将来につながるよう取り組んでまいります。

東京オリンピックに向けては，「大会機運の醸成」「カシマの復興を世界に発信」「ボランティア活動の育成支援」「スポーツ文化の発展及び教育・文化活動の推進」「観光振興と魅力の発信」の5つを柱として，様々な取り組みを進めてまいります。

今年10月20日から24日までの5日間の予定で，茨城国体の競技別リハーサル大会として「第54回全国社会人サッカー選手権大会」が開催されます。

関係団体や市民，行政などが一体となって円滑な大会運営に努め，茨城国体に向け，受入体制や競技会場の施設整備など準備を進めてまいります。

現在，市内の全ての中学校では，茨城国体開催に向けた取り組みを，生徒が企画立案し実践する「鹿嶋の元気創出プロジェクト」の活動を進めております。

引き続き、こうした活動を通じて、大会機運の醸成を図るとともに、郷土愛の育みにつなげてまいります。

平成31年4月のオープンを目指し、大野ふれあいセンターの北側に、屋内温水プールの整備を進めてまいります。

大野区域の学校プールの集約化と市民の利用を踏まえて、プールの一部の水深を浅くしたり、トレーニング室を併設するなど、子どもから高齢者まで、誰でも安心してスポーツを楽しみ、健康づくりができるよう整備してまいります。

「サッカーのまち鹿嶋」のシンボルである我が鹿島アントラーズの昨シーズンは、最終節でリーグ優勝を逃し無冠という大変残念な結果に終わりました。今シーズンは、リーグ優勝を含めて全冠制覇を目指し、熱い戦いと感動を期待しております。

市民の皆様には、カシマサッカースタジアムに足を運んでいただき、大きな声援をお願いいたします。

市としましても、ホームタウンとして、バナーフラッグの設置や小学校全校応援事業、アントラーズPR大使などを通じ市民の機運醸成などを図ってまいります。

#### **(未来を創るひとづくり・まちづくり)**

結婚から出産、子育て、教育まで切れ目のない支援を通じて、「子育てするなら鹿嶋市で」と誰にも思ってもらえるよう、子どもを育てやすいまちづくりを推進してまいります。

結婚活動に対する支援については、結婚に前向きになれるよう意識の啓発や出会いの場の提供、婚活サポーターの養成などに取り組んでまいります。

「妊娠期」「出産直後」「子育て期」の各ステージにわたる様々なニーズに対して切れ目のない支援を行う拠点として、新年度から市保健センター内に「子育て世代包括支援センター」を設置します。

専任の母子保健コーディネーターを配置し、妊産婦や子育て家庭の相談支援、保健指導など、関係機関と連携を図りながら、きめ細かな支援を行い、安心して出産・子育てができる支援体制の強化を図ってまいります。

待機児童対策については、民間保育所を含めて保育定員の拡大により、平成27年度から今年度まで、年度当初の待機児童ゼロを達成しております。引き続き、待機児童ゼロの継続に向けて取り組みを進めてまいります。

安心な保育環境の確保に向けて、民間保育施設と連携し、延長保育や一時預かり、病児保育事業など、就労と育児の両立できる環境の整備や多様化する保育ニーズへの対応を図ってまいります。

また、子宝手当支給事業や子どもの医療費助成、第3子以降の保育料・給食費の無料化など、子育てにおける経済負担の軽減を図ってまいります。

市では、これまで、学校・家庭・地域が連携した学校づくりを推進するとともに、小学校での英語教育や少人数学級の導入、学校図書館の全小中学校への整備、教育センターの設置など教育環境の充実を図ってまいりました。引き続き、教育先進都市としての各種施策の展開・拡充を図ってまいります。

新年度から、高松小学校及び高松中学校において小中一貫教育がスタートします。地域との連携を密にしながら、小中学校が隣接している特長を生かし、9年間の連続した学びの中で、子どもたちの確かな学力と豊かな人間性を育ててまいります。

先月には、高松地区の児童生徒と地域のそれぞれの代表者による「第1回高松元気プロジェクト」が開催され、「学校・地域を元気にするには！」をテーマに、活発な意見交換が行われております。

国では、平成32年度から小学5、6年生の「外国語活動」を「外国語科」として正式な教科に移行しますが、本市においては、これまでの英語教育の先進的な取り組みを踏まえ、2年前倒しをして、新年度から先行実施いたします。

外国語活動では、「聞く」「話す」といった英語に親しむことを中心に行ってまいりましたが、新年度からは「読む」「書く」の技能の習得も図ってまいります。また、英語版授業改善プロジェクトの推進や英語専科教員の配置、ALTの指導力向上など、更なる英語教育の充実を図ってまいります。

東京オリンピックのサッカー競技の鹿嶋開催を踏まえ、オリンピック・パラリンピック教育を推進してまいります。新年度は、オリンピック・パラリンピック競技のトップアスリートをオリパラ校長先生として小中学校に派遣します。

オリパラ校長先生と子どもたちとの交流授業などを通じて、夢を持つことやその夢に向かって努力することの大切さ、仲間と協力することの大切さ、障がいに対する理解などを深めてまいります。

子どもたちが安全・安心して快適に学べる教育環境の充実として、施設の計画的な老朽化対策や空調設備の整備などを推進してまいります。

今年度から3カ年計画で、全ての小中学校におけるエアコン整備と机・椅子の更新を進めております。また、新年度においては、中学生生徒用パソコンのタブ

レット化に対応できるようネットワーク環境の整備を行ってまいります。

新年度から、生活に困窮する世帯の中学2年生と3年生を対象に「子どもの学習支援事業」を開始いたします。学習支援や居場所の提供などを行うことによって、子どもの社会的自立を促し、貧困の連鎖の防止に取り組んでまいります。

また、経済的理由により小中学校に就学が困難と認められる子どもの保護者に対し、学用品費などの一部を支援する就学援助制度については、保護者の負担軽減を図るため、新入学学用品費の入学前の支給を開始いたします。現在、今月下旬までに支給できるよう、手続きを進めております。

### （地域資源を生かしたまちづくり）

鹿島神宮をはじめとする悠久の歴史と文化。豊かな自然。新鮮で美味しい農水産物。最先端の技術が集積した鹿島臨海工業地帯の活力。鹿島アントラーズに代表されるサッカーや武道など「スポーツのまち」としてのブランド力。こうした数多くある本市の魅力をさらに磨き上げるとともに、有機的な結び付けを強め、新たな魅力づくりを図ってまいります。

先月、鹿行5市連携による「一般社団法人アントラーズホームタウンDMO」を設立し、新年度から本格的な旅客営業を開始します。

アントラーズホームタウンDMOは、「スポーツツーリズム」をメインテーマとして、茨城国体や東京オリンピックのサッカー開催を絶好の機会として、東アジアなどからの誘客を図り、日本を代表するスポーツ合宿地を目指してまいります。

鹿嶋市産米や野菜、はまぐり、ホッキ貝など、地元農水産物の地消地産の推進と消費拡大に向けたPRを推進してまいります。

昨年12月の「鹿島灘はまぐり祭り」での地元ホッキ貝を使用した料理コンクールでは、審査員のフレンチの鉄人坂井宏行シェフからホッキ貝とクリームとの相性が絶妙と講評をいただいた「クリーム&カレーコロッケ」が優勝しました。

今後も、地元海産物を活用したご当地メニューの開発や市内飲食店などへの普及など、鹿嶋の水産物のPRに努めてまいります。

本市は、先人が培ってきた歴史のまちであり、その顔となるのが歴史と風格を持つ鹿島神宮と宮中地区の街並みであります。鹿島神宮には多くの参拝者が訪れていますが、宮中地区には空き店舗が目立ち、賑わいを失いつつあります。歴史のまちとしての更なる魅力向上を図るとともに、こうした貴重な歴史資産を核として、宮中地区の観光産業の構築を促進してまいります。

関係団体や地元事業者、地域住民などとともに、宮中地区における活性化基本

計画の策定を進めるとともに、まちづくりの事業推進主体として期待される「まちづくり会社」への支援を行い、空き店舗対策やイベント開催などによる賑わいづくりを創出してまいります。

鹿島港の港湾施設の整備及び利活用の促進に向けて、幾度となく、関係機関に対する要望活動を行ってまいりました。国の鹿島港に対する港湾整備事業費は、当初予算ベースで、平成27年度は54億9千万円、平成28年度は65億4千万円、そして今年度は69億2千万円と、ここ3年間の予算は大幅な増額となりました。

外港地区で進められている鹿島バルクターミナル株式会社の貯炭場建設については来月に完成し、6月にはオーストラリアからの石炭輸送第一船を迎え、外港地区での念願の産業活動がスタートする予定となっております。

引き続き、鹿島港が安全で使いやすい港となるよう港湾施設の整備促進と外港公共埠頭の利活用について、関係機関への要望活動を積極的に行ってまいります。

### **(市民と共に創るまち)**

市民・事業者・行政などの多様な主体が情報や知恵を持ち寄り、共創によって地域の課題解決を目指す「共創によるまちづくり」を進めてまいります。

公民館などを拠点とした地域コミュニティの活性化を図り、市民が相互に支え合う地域社会の構築を目指してまいります。

女性も男性も、互いに尊重しつつ、個性と能力を発揮し輝けるまちづくりを進めてまいります。

市の地域・行政情報をホームページやSNS、FMかしまなど、様々な媒体を利用し、市民との情報共有を推進してまいります。

市のホームページについては、新年度から3カ年計画で全面リニューアルを行う予定であり、高齢者や障がい者を含む誰もが支障なく利用でき、情報を共有できるよう、アクセシビリティへの対応を図ってまいります。

地域コミュニティは自然に形成されるものでなく、継続的な活動の蓄積の結果であります。各公民館では、地区の特性に合わせた地域住民主体のまちづくりが展開されています。引き続き、地域の課題解決や地域住民の絆づくりなど、まちづくり活動を支援してまいります。

男女共同参画社会の推進については、女子フェスタやフォーラムの開催、情報紙の発行などを通じて、情報や学習機会の提供、意識啓発などを行ってまいります。

### (住んで安心のまちづくり)

生涯を通じて、健やかで生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して生活を送ることは、市民誰もの願いであります。

市民一人ひとりの健康づくりと疾病予防に取り組むとともに、地域医療・救急医療体制の充実、地域ぐるみの福祉のまちづくりを推進してまいります。

また、関係機関との連携を図りながら、地域が一体となった防災力の向上や防犯、消防力の強化などに取り組んでまいります。

地域福祉の推進については、平成30年度から34年度までの5カ年を計画期間とする「第3期鹿嶋市地域福祉計画」の策定を進めております。

少子高齢化や核家族化の進行などにより、家庭や地域における相互扶助機能が低下していることなどを踏まえ、市民や事業者、NPO、ボランティア、行政といった多様な主体の連携の下、地域コミュニティの醸成や地域ぐるみで支え合う体制の構築を推進してまいります。

障がい者福祉の充実については、平成30年度から32年度までの3カ年を計画期間とする「第5期鹿嶋市障がい福祉計画」及び「第1期鹿嶋市障がい児福祉計画」の策定を進めております。

子どもから高齢者まで、障がいを持つ全ての方が地域で生活する中で尊厳が守られ、日常生活を安心して送ることができるよう、きめ細かなサービスと計画的な提供体制の構築に取り組んでまいります。

高齢者福祉の充実については、団塊の世代全てが75歳以上となる2025年問題などを見据え、第7期となる「はつらつ長寿プラン」の策定を進めております。

介護給付などのサービスの提供体制の確保と地域支援事業の計画的な実施に取り組むとともに、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、医療、介護、介護予防を包括的に提供する「地域包括ケアシステム」を推進してまいります。

地域医療・救急医療対策については、不足する診療科医師の確保や休日・夜間の診療体制の確保・充実に向けて関係医療機関に対する支援を行うとともに、茨城県及び鹿行南部地域の各市と連携を図りながら、休日・夜間の救急医療体制の充実を図ってまいります。

また、課題である三次救急患者の受入れについては、引き続き、土浦協同病院や千葉県の旭中央病院などに協力要請を行ってまいります。

防災力の向上については、近年の異常気象による災害にも柔軟に対応できるよ

う、地域防災計画の見直しを行うとともに、津波避難誘導灯の充実や備蓄用非常食・飲料水の計画的な配備など、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

今月は、明日実施される「大野公民館地区避難所運営訓練」をはじめ、波野や三笠、神野の各地区において防災訓練が行われます。

新年度には、茨城県と合同で、大規模複合災害を想定した「総合防災訓練」を実施します。

地域防災の中核となる消防団や消防署、地域住民、事業者などにおける連携を高め、市民一人ひとりの防災意識の高揚や地域ぐるみの災害体制の強化を図ってまいります。

防犯活動の強化については、自警団や事業者などと連携を図り、地域ぐるみの防犯活動を促進するとともに、防犯灯や防犯カメラの設置を推進し、犯罪防止及び歩行者の安全確保を図ってまいります。

防犯灯の整備に当たっては、地球温暖化対策や電気料金などの維持管理費の軽減を図るため、全ての蛍光灯式防犯灯をLEDに切り替えてまいります。防犯カメラについては、今年度、鹿島神宮駅に設置しておりますが、新年度においても、鹿嶋警察署と協議を行いながら、効果的な場所への設置を進めてまいります。

東日本大震災を踏まえて災害に強い住環境の確保を図るとともに、道路の整備や交通手段の確保など都市基盤の整備を進めるなど、快適かつ住み良いまちづくりを推進してまいります。

鹿島神宮駅周辺（西側）地区、平井東部地区及び鉢形地区の3地区の液状化対策事業については、今年度末に工事が完了することから、今後1年間かけて、液状化対策の効果や影響について検証するため、地下水位などのモニタリング調査を行ってまいります。

高度情報通信社会や超高齢社会の進展などにより、市民の消費生活を取り巻く環境は大きく変化し、これに伴い、消費者トラブルも複雑・深刻化しています。特に高齢者を狙った悪質・巧妙化した手口による被害は後を絶ちません。

市消費生活センターにおいては、より利用しやすい相談体制の整備はもとより、被害の未然防止に向けた啓発活動など、消費者行政の充実・強化に取り組み、引き続き、安全で豊かな消費生活を送ることができる社会の実現を目指してまいります。

空家対策については、「鹿嶋市空家等対策計画」に基づき、本年4月から「空家バンク制度」を導入いたします。今後は不動産事業者団体などと連携し、空家の流通・活用を促進し、生活環境の保全や移住定住の促進などを行ってまいります。



道路環境の整備については、市民生活の安全性と利便性の向上や渋滞緩和、産業振興、そして東京オリンピック開催を見据え、来訪者の快適な往来の確保を推進してまいります。

東関東自動車道水戸線については、今月3日に「茨城空港北～鉾田」間の約9kmが開通しました。今後も、「鉾田～潮来」間の整備促進と悲願である鹿嶋市への延伸、さらには、一般国道51号鹿嶋バイパスの4車線化の早期実現について、国や関係機関に対し要望活動を積極的に展開してまいります。

なお、新神宮橋については、平成26年度に「神宮橋架替事業」として4車線が決定され、平成27年度、28年度に詳細設計が行われ、現在、橋りょう下部仮橋設置工事に着手したところです。

都市計画道路宮中佐田線については、旧国道124号から国道124号バイパスまでの区間の平成32年度開通を目指し、茨城県に対し全面的な協力体制を構築し事業促進を図るとともに、その先線の事業化に向けても、引き続き、茨城県に要望してまいります。

幹線道路の整備については、市道0151号線（武井）、0155号線（角折・棚木）、0105号線（平井）の3路線を通学路交通安全プログラムとして、国の補助制度を活用し、新たに道路改築や交通安全施設などを整備し、地区住民や子どもたちの安全な歩行空間を確保してまいります。また、橋梁長寿命化修繕計画に基づく橋梁の計画的な老朽化対策をはじめ、道路施設の健全な維持に努めてまいります。

雨水排水対策については、引き続き、事業の緊急性や優先度を明確にし、既設排水施設の流下機能改善や雨水排水管渠・道路側溝などの排水施設を計画的に整備してまいります。懸案であった荒野台駅周辺地区の雨水排水対策については、国の補助制度を活用し、雨水公共下水道事業として、現在、詳細設計の取りまとめを行っており、新年度から計画的に整備してまいります。

公共交通については、鹿嶋コミュニティバスの運行のほか、行方市や潮来市と連携した広域路線バスの運行など充実を図ってまいりました。鹿嶋コミュニティバスの平成28年度の利用者数は約5万8千人に上り、1便当たり9.8人と多くの市民に利用されております。

しかしながら、バス停や駅まで遠いといった公共交通空白地の問題や増加する高齢者への対応など、交通弱者の移動手段の確保が課題となっております。

このため、新年度に、鹿嶋コミュニティバスの一部路線を見直し市街化区域の公共交通空白地に対応するとともに、市内全域を対象にしたデマンドタクシーの

導入を進めてまいります。

### (自立した信頼のあるまち)

少子高齢化の進展に伴い社会保障費の増大が予想されるなど、厳しい財政状況が見込まれます。こうした中、安定した行政サービスを継続して提供するとともに、少子高齢化や地方創生などの課題に対応していくために、ふるさと納税など財源確保や行財政改革を推進してまいります。

また、職員一人ひとりの能力向上に努め、より質の高い行政サービスの提供に努めてまいります。

### 《提出議案等》

次に、提出いたしました議案について説明いたします。

提出議案は、予算関係議案が19件、条例関係議案が16件、その他の議案が2件、報告議案が1件、合わせて38件であります。

まず、予算関係議案は、平成30年度当初予算が11件、平成29年度補正予算が8件であります。

次に、条例関係議案は、新たに制定するものが2件、改正するものが14件であります。

新たに制定する条例は、「鹿嶋市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例」などであり、改正する条例は、「鹿嶋市資金積立基金条例の一部を改正する条例」などであります。

その他の議案は、「損害賠償の額を定め、和解することについて」などであります。

報告議案は、平成29年度一般会計補正予算に係る専決処分の報告であります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。